

令和6年度 介護の日 作文コンクール 作品集



いつだって、笑顔をつくる人がいる



はじめに

十一月十一日は、「介護の日」です。「介護の日」は、介護についての理解と認識を深め、介護従事者、介護サービス利用者及び介護に取り組む家族を支援するとともに、これらの方々を取り巻く地域社会における支え合いや交流を促進する日とされております。

この趣旨を踏まえ、県と茨城県老人福祉施設協議会との共催による「介護の日」作文コンクールを実施し、介護を必要とする人や介護の仕事をしている人だけでなく、県民誰もが介護について考えるきっかけとしています。

今年度も、関係する皆様の御協力により、心温まる多数の作品をご応募いただき、第十六回目となるコンクールを開催できましたこと、厚く御礼申し上げます。

一般の部と学生の部を合わせて二百七十二作品の応募があり、茨城県知事賞、茨城県議会議長賞、茨城県老人福祉施設協議会会長賞、茨城県社会福祉協議会会長賞、茨城県理学療法士会会長賞、茨城県介護福祉士会会長賞の六つの賞において、各賞二作品、合計十二作品を選定いたしました。

この度、受賞作品を作品集にまとめましたので、御紹介いたします。多くの皆様に御覧いただくことで、介護についての理解と認識を深める一助となれば幸いです。



目 次

須加野花色「介護の未来を考える」	1
川村 悦子「あたたかい介護を受けて」	2
中村 里彩「支え合う関係」	3
ジンマーミヨー「介護の日」	4
佐藤 瑠奈「介護がある生活」	5
吉沢 一徳「介護の重さを知る」	6
栃木 結愛「社会にとってあたりまえに」	7
遠藤 彩菜「介護について」	8
福井 萌禾「ひいおばあちゃんが 教えてくれた事」	9
早乙女洋子「支え合って生きる」	10
五十嵐凜乃「在宅介護の難しさ」	11
船橋 海人「誇り」	12
茨城県老人福祉施設協議会の取り組み	13
茨城県社会福祉協議会の取り組み	14
茨城県理学療法士の会の取り組み	15
茨城県介護福祉士の会の取り組み	16



本冊子で使用している写真は一般社団法人茨城県老人福祉施設協議会の会員施設に勤務する職員の皆さんです。写真のテーマは「いつだって、笑顔をつくる人がいる」。高齢者施設で働く皆さんの写真も併せてご覧ください。



茨城県知事賞

介護の未来を考える

私にとっての「介護」。それは、とっても身近なもので、生活の一部です。でも、介護の意味は何となくわかるけど何をするのかと知らない人もたくさんいると思います。介護とは、高齢者や体の不自由な人たちが日常生活を快適に送れるように、生活援助や、身体的介護のサポートをすることです。私もまだまだ勉強不足ですが、介護職にはホームヘルパーをはじめ、たくさん職種があることを知りました。

私の兄は障害をもっているため、ほとんど介護が必要な生活を送っています。移動は車いす、食事は一日五〜六回、胃から注入する胃ろうという食事法で、排せつもオムツを使用しています。主に母が介護や介助をしています。私も毎日その姿を見て、母と一緒に兄の介護の手伝いをすることもあります。家の中では兄が生活しやすいように、介護もしやすい室内ですが、一歩外へ出る



銚田市立旭中学校

須加野 花色

と、大変なことばかりです。スーパーへ行けば駐車場がせまく、車いすを出しての乗りおりが大変だし、商業施設でもオムツを交換する場所がなく車に戻って替えたりと、書き出せばたくさん不便なことばかりです。これは、障害のある人だけではなく、高齢者の方も同じことが言えると思います。過ごしやすく住みやすく、身体的な援助はもちろんですが、一番は、介護しながらコミュニケーションをたくさんとって、となりで寄り添うことが、一番のサポートになる気がします。

兄を含め、これから先の介護を受ける方々に明るい世界、住みやすい環境、温かい人達の支援が今よりもたくさんある未来でありますように。

私も、もっともっと介護を知っていききたいです。



茨城県知事賞

あたたかい介護を受けて



川村 悦子

年若い、九十五歳に手の届く私は、今年に入ってからようやく、介護の認定を受けました。以前より家族から早く認定を受けるよう勧められていましたが、どうしても抵抗があり、避けてきました。ある時、私よりも一回り以上若い方が、介護認定を受け、施設に通っていることを耳にして、ようやく踏ん切りが付き、私も現在は週三回デイサービスに通い始めました。

火曜と木曜は電気かけとマッサージで、上から足の指先まで観察し、実施してくれています。土曜は計算をしたり、ことわざの穴埋め、ゲームなど頭の体操をしています。また杖を使つての正しい歩き方等、目的をもってあたたかく指導して下さいているので、私にとって、大変勉強になります。衛生面でも十分気をつけていただき、きめ細やかな所まで配慮していただいております。

私が今まで勝手に想像していた介護施設とは、

まったく違っていました。雰囲気がとても明るく、一人ひとりに寄り添い、思いやりに溢れる素敵な場所です。

長い間、認定を受けず、施設へ通うことを拒んできた自分が恥ずかしい限りです。

介護施設には大病をしてリハビリを前向きにがんばっている人達がたくさんいます。いろいろな人達と接することで、良い刺激を受け、自分の人生観も大きく変わりました。

年若いでも、自分で出来ることは、なるべく自分でやるよう心掛けていきます。若い人達のお手本となるよう明るく前向きに頑張ります。

今後も楽しく、無理なく、アンテナを高く保ちながら、いろいろなことに好奇心をもって過ごしていきたいと思えます。

「あたたかい介護」に感謝！感謝！

「あたたかい介護」両手を挙げて拍手！



茨城県議会議長賞

支え合う関係

私の父と母は「介護福祉士」と「ケアマネジャー」という自分一人では生活をするのが難しくなってしまう人を支える仕事をしています。そのため、利用者である高齢者との関わりが自然と多くなりました。

そんな私ですが、心の中で老人ホームのような知らない人と関わりや交流を増やすところでは負担が掛らないのかと疑問に思っていました。その疑問を抱きながら一日だけ母が働いている老人ホームに連れて行ってもらったことがあります。中に入ってみると、気持ち明るくなるようなポスターや色画用紙で作られた絵がたくさん壁にはってありました。利用者さんたちはぬり絵や工作、グループでのゲームをしていました。利用者さんたちの笑顔を見て、交流を増やすことは少しも負担に思っていないと感じました。父や母の家の姿を思い返すとよく会社からストローや色画用紙、輪ゴムなどを持ち返ってきていました。そのことが気になったので実際に母に聞いたことが



古河市立三和北中学校

中村 里彩

ありました。そうすると、季節や行事ごとに季節にちなんだものをつくって建物全体を明るくしているそうです。また、ペットボトルや割りばしで魚つりをするものを作るなど、少しでも利用者さんが楽しく過ごせるような環境を作っているそうです。私は、母の仕事で利用者さんたちと関わってから利用者さんたちの笑顔が少しでも増えるように製作を手伝っています。製作をしながら利用者さんたちの笑顔を思い浮かべるたびに利用者さんに支えられていると感じます。

介護とは、支え合う仕事です。私は介護福祉士になることも視野に入れていきます。介護をすることは笑顔にするだけではないと思います。生活をサポートしたり、薬をわたしたりするなど体も元気にすることの二つが成り立って介護だと思えます。支え合い、助け合う「介護」という仕事に将来、携われるように一つ一つの事に責任を持って笑顔を大切にしていけるようにしたいです。



茨城県議会議員賞

介護の日

私はミャンマーからの実習生です。面接のため介護の知識をインターネットで検索しました。高齢者や障害者等に対する介護に関し、県民への啓発を重点的に実施するための「介護の日」である11月11日を、「いい日、いい日」と簡単に覚えめました。面接後、介護センターに介護の知識と技術をつけて習いました。それからもっとも面白くなりました。自分が分かる介護はおじいさんとおばあさんへの介助だけです。今、だんだん分かってきたのは利用者の尊厳のある暮らしを支える専門の仕事です。出来る事は自分でやってみたら人間らしく喜びを感じて生きられるように自立支援をすることです。今、勤めている会社の理念は「人生をより楽しく元気で」～あたたかくもっとあたたか～です。あたたかい思いやりが職員さん同士にも、利用者さんに接する為にも重要なポイントだから気になって好きな事でした。私の職場は利用者さん10名様が入居して、「ひかり」というユニットです。家のような部屋でございますから



特別養護老人ホーム
アクティブハートさかど

ジンマーミョー

利用者さんにしても良いと思います。私にとっても楽しくなります。最初は認知症がある利用者さんとコミュニケーションする時、介助する時は大変でした。理由無く、叱られる時にはストレスがたまつて苦勞する時もありました。それでも利用者さんの好み、くせ、嫌な事等をよく分かると簡単に解決することになって徐々に慣れました。利用者さんと話せば話すほど面白い物があります。認知症の症状があるけどいつもの事は記憶に残っています。例えば仕事の事ばかり話されている方もいるし、家のおじいさんのことを心配しているおばあさんもいるし、ピアノを弾ける方もいます。利用者の為何が必要な物か、何をやったら安全なのかを考えてお世話になりたいです。私にとって出勤して一日の仕事が無事に終わった日は介護の日です。帰国すれば介護を通じて得た経験で両親やお年寄りにお世話になって他の人に介護を教えたいです。



茨城県老人福祉施設協議会長賞

介護がある生活

私には、八十八歳の曾祖母がいました。八十八歳でも薬も飲まず元気だった曾祖母でしたが、ある日突然、癌という病に侵されてしまいました。癌とわかってからも、最初は何事も一人でできていましたが日に日に弱ってきてしまい、介護が必要となりました。日頃から「紙おむつをするなら死んだ方がまし」と言っていた強気な曾祖母でしたが、だんだんと弱っていく曾祖母はそんなことすら言えなくなるぐらい弱っていきました。ここから、自宅での介護が始まりました。この日が来るまで、介護には関わらないものだと思っていました。家族で協力して曾祖母のオムツを取り替えたり、体を拭いてあげたり、ご飯を食べさせたり、みんなで話しかけたりしました。やっているのを見たり、実際にやったりして介護はとても大変なことだと感じました。

また、介護をする人の負担を少しでも減らすために介護保険制度があり、デイサービスや介護施設も多くある中、家族が選択することができ、介

護保険制度の充実は素晴らしいと思います。その中でも私の家は、曾祖母が癌で余命宣告されていたこともあり、家族と一緒に生活ができる在宅介護を選び、家族で曾祖母を支えました。在宅介護は介護される側も長く親しんできた人たちと一緒に過ごせることは、精神面の安定にもつながるのかなと思いました。

最後に、これらの経験を踏まえて、介護は「気付き」が大切だと思います。小さなことに気付くことができなければ大きなトラブルや急変につながってしまうと思いました。このように、介護の仕事は命を守る仕事だと思うので、とても重要な仕事だと感じています。今、介護職不足と言われていて世の中なので、もっと高い賃金をあげてもいいのではないかと思いました。そうすれば、もっと介護をする人が増えていくと思いました。



古河市立三和北中学校

佐藤 瑠奈



茨城県老人福祉施設協議会長賞

介護の重さを知る

「今日は居るはずなのに姿が見えないから心配したよ。別の所で仕事していたんだね。良かった」と、百歳を超える利用者のおばあちゃんが手を握って喜んでくれた。この様に言われたら介護職員として最高の喜びである。

私が介護の仕事をしようと思ったのは、同居していた義父に対して、決して褒められない対応をしてしまったことの償いからである。

「爺ちゃんテレビの声が大きいの、明るいの、電気がつけなくて、ご飯をこぼさないで」などと、今思えば「申し訳ない対応をしてしまった」と反省するばかり。

私は、定年退職後、介護施設のデイサービスの仕事を選んだ。入浴やトイレ介助等なら大丈夫だろうと安易に考えていた。

しかし、そう簡単なものではなかった。それぞれ利用者さん個々の健康状態や、身体に何らかの障害を持っている方など、対応の仕方も様々。認知症の重い方の対応も難しく、できれば大変そ



介護職員

吉沢 一徳

うな仕事はなるべく避けたい気持ちの片隅にあった。

ある時、フロアで女性看護師が必ずしも清潔とは言いがたい一人の利用者さんに寄り添い、優しく対応している姿を見た時、一言で「凄い、これが介護の対応なのか」と思った。

その時以来、私の行動が少しずつ変化していった。その結果、利用者さんとの距離が縮まり、日を追う毎に「ありがとう。嬉しかった」と言ってもらえることが多くなってきた。

志をもって介護の世界に飛び込んで来たがなかなか思い通りには行かず、介護の重さを感じつつも、失敗や経験を重ねながら徐々に自信を持って対応できる様になってきた。

そして、デイサービスのフロアも、あちらこちらで笑顔が見られ、穏やかな雰囲気になってきた。この状態がいつまでも続いていく様、利用者さんとのコミュニケーションを大切に、介護職員として更に磨きをかけていく考えである。



茨城県社会福祉協議会長賞

社会にとってあたりまえに

私の祖父は少し離れたところに住んでいる。なので大きなイベントがないと会うことはほとんどなく、お盆やお正月などの行事で会うくらい。そんな祖父が認知症の診断を受けた。

祖父と関わっていて初めは正直、少し怖いと思った。学校で学んでいるはずなのに、知識があつて、少しは理解していると思っていたのに。「認知症」というものを身近に感じて、怖かった。そして、悲しいとも思った。

祖父は祖母と息子の三人で暮らしている。でも、二人はあまり認知症に理解が無いようで、祖父を責めるような口調になってしまっていることが多かった。そんな時、祖父はとても悲しそうな顔をしていた。それを見ているのはとても苦しかった。辛かった、悲しかった。声をかけたいと思ったが、普段関わらない私が声をかけてしまっているのか分からなくて声をかけられなかったが、その後私が話しかけた時、祖父の声のトーンが明るくなった気がして、表情も前より明るくなった



古河第二高等学校

栃木 結愛

気がした。私は、それがとても嬉しかった。

誰かが、辛い思い、悲しい思いをしない為にも、私はもっと介護についての知識が一般化されるべきであると思っている。ずっと疑問に思っている。何故、介護や福祉について教える機会が少ないのか。外国語は教えるのに、プログラミングは教えるのに、と。超高齢社会となっている現在、介護について学ぶことはとても大切なことなのではないかと私は考える。もちろん、理解が難しいのも、実感がわかないだろうということも分かる。それでも、少しでも知っていることで誰かが救われるかもしれない。幸せを感じるかもしれない。その可能性を私は少しでも増やしていきたいと思うから、やはり私は、もっと考えていくべきではないのかと思う。

私は将来、福祉に関わる仕事に就きたいと考えている。祖父の顔を見て私が嬉しかったように、私も誰かを喜ばせられるように。誰かの幸せを願って、周りにも伝えていきたい。



茨城県社会福祉協議会長賞

介護について

私が、この介護という仕事に就きたいと思い始めたのは、小学4年生の頃でした。母の影響で母の働く介護施設に見学に行った時の事です。もちろん、当時小学生だった私は、介護施設がどんな場所なのか、何をやる所なのかは想像もできませんでしたが、いざ行ってみると、そこには新しい世界が広がっているように感じました。施設にいる方達は、私の事なんて初めて見る知らない人ではなく、沢山お話しして下さり、手を握って、「ありがとう」と笑顔を見せて下さり、そこで私は心を掴まれました。「人の役に立ちたい」「お年寄りと同様になりたい」と小学4年生ながらに思い、ずっと夢を見てきました。

その夢が叶い、高校を卒業し、すぐに特別養護老人ホームで働けるようになりました。ずっと思い続けてきた介護の世界に足を踏み入れられた事、とても嬉しく思います。

介護の世界に入って、今年で2年目になります。小学生の時に、自分が思っていた事だけでは



特別養護老人ホーム
セ・シボンかしま

遠藤 彩菜

収まらない沢山の「葛藤」「やりがい」「楽しみ」があります。入居している方達への接し方が、これで合っているのかを考え、敬う気持ちを忘れず関わろうとしています。悲しくなる事や、気持ちが落ち込みそうになる事もありますが、その時には自分の対応などを見返し、接したり、その方達の笑っている顔を思い浮かべたりと、自分なりの工夫を見つけながら仕事をしています。やはり、自分がやりがいを感じるのには、笑顔を見せてくれた時、「ありがとう」という言葉を聞いた時、利用者様が楽しそうにしている時などが自分も笑顔になれる時です。

自分がやりたかった仕事をととても良い環境で出てきている事を誇りに思い、たとえ挫けそうになっても初心を忘れず、誰かに憧れられる介護士を目指し、前を見つつ、時々後ろも振り返りながら成長していきます。



茨城県理学療法士会長賞

ひいおばあちゃんが 教えてくれた事

介護という言葉を耳にすると、ひいおばあちゃんを思い出します。ひいおばあちゃんが認知症を患い、施設へ入所するまでの数年間。祖父と祖母で介護をしていました。食事は、刻み食やおかゆにし、食べやすいように工夫をしながら作っていました。一人で歩くことが出来なかったため、お風呂やトイレは、その都度、介助していました。文字で書くと、たった数十文字のことですが、これを休みなく続けていたことがどれほど大変だったのか、当時、小学生だった私には想像が付きませんでした。

今だから気づくこと―それは、介護される側だけでなく、する側のケアも大切ということです。祖父と祖母が、ひいおばあちゃんを連れてうちに遊びに来てくれた時、目の前にあるコップパンを布巾だと思ひ込んでしまい、パンでテーブルを拭いてしまったことがあります。その時、祖父が注意しながらパンを取り上げようとしたのですが、意思の疎通が取れず、大きな声で叱ったことがあ



大成女子高等学校

福井 萌禾

りました。私はその様子を見て、「ひいおばあちゃんがかわいそう。」と怒鳴った祖父に腹が立ったのを覚えています。今思えば、祖父も限界だったに違いありません。あの時、「じいちゃん大丈夫？ ばあちゃんも大変だよ。」と声を掛けていたらほんの少しでも心を軽くしてあげられたかも知れないのに。

祖父や祖母を通して、介護はきれいごとではない分、知ることの大切さを学びました。高齢化社会の今、誰もが介護する側、される側になるかも知れないということ。どちら側になっても、疲弊しないような社会づくりが大切だと思います。

自分より相手のことを気にかける性格は、認知症になっても変わらさず、いつも優しかったな。施設で一緒に飲んだジュース、美味しかったね。元気だったら、今年で百歳。天国で穏やかに暮らしていますように。



茨城県理学療法士会長賞

支え合って生きる

杏花訪問介護事業所

早乙女 洋子

平成元年、私が介護の仕事に就いた時、「何でそんな仕事をするの」と、人からげんそうに言われた。まだ、介護保険も導入されてない時代であり、市役所の福祉事務所までひとり暮らしの高齢者と障害者の生活支援、寝たきりの方の巡回入浴サービスの仕事です。

まず健康状態を確認し心をしっかり受け止めてあげることを心がけて、一年中市内を自転車とバイクで走り回って支援をしました。

近隣の方と全く係わりなく生きてきた頑なな人には、唯、直向きに寄り添ってあげるうちに心を開いて受け入れて貰えるように充分時間をかけた対応をしました。視覚障害の方とは天候に関係なく夏の炎天下は汗を流しながら、雨の日にはカッパを着てショッピングカーを押して買い物に行き、道路の状況や店内の様子をずっと説明しながらガイドしました。巡回入浴は看護師とヘルパー二名のチーム編成で寝ている部屋に浴槽を運び込んでの入浴となります。みなさんカレンダーに記

しをつけて指折り数えて楽しみに待っていてとても喜んでくれ、長い間、働いてきた感謝のご褒美を届けられたと思います。

ヘルパーの仕事は精神面でいろいろ気遣いが大変です。でも、助けられた事があります。ヘルパーになって三年目の夏、主人が緊急透析となった時、訪問先の透析をしている方の教えに、希望を持つことができました。だが、主人は三年後の冬、脳内出血で倒れ半年後七夕に旅立ってしまいました。あまりにも突然の出来事であったが悲しみを堪えて仕事に向くと、皆、我が身のように悼みの涙を流してくれる姿に私は、励まされ勇気づけられ頑張ろうとしっかり立ち直ることができました。

私の訪問を待っている人達の中には、私よりも逆境をくぐり抜けてきた人達があります。みんなと一緒に泣いて笑って励まし合ってやってきました。待っていてくれる人がいるからご恩返しが終わる日まで自分自身の生きがいとして支え合って生きたいと思います。



茨城県介護福祉士会長賞

在宅介護の難しさ

それは突然にやってきた。

「あなた、どちら様？」

除夜の鐘が鳴り始め親戚と新年の挨拶をしていた時、祖母が私の母、つまり自分の娘へ放った言葉だった。今まで談笑していた祖母は一瞬で険しい表情になった。あまりにも衝撃的で耳を疑った。冗談だと一蹴したかったが、その日を境に祖母の認知症は進んでいった。

祖母はとても陽気な性格だ。他県に住んでいたため、私の成長と共に会う時間は徐々に減っていった。それでも私は祖母に会いたいと、時間をかけて祖母の家へ遊びに行った。祖母は足が悪く外では自立歩行が困難だったため、車いすで色々な場所へ一緒に出掛けた。たまに会う私たちには優しい祖母だが、同居している叔父たちに、段々と攻撃的になり暴言も増え、その頃には皆が疲弊した表情になっていた。祖母は市の福祉サービスも受けていたが、利用するにはお金が掛かるからと遠慮していた事も、余計家族の負担が増えた原

因だったかもしれない。

祖母の骨折を機に茨城県のわが家で暫くお世話することにした。その頃には祖母は孫の兄と私しか判らなくなっていった。夜中には五分おきに排泄介助。勝手に起きだそうとするため、母は鈴を祖母の腕につけその都度車いすに移乗させトイレに連れていった。風呂は段差があり、介護用品が揃っておらず、家族全員で協力して入れた。数週間だったが介護される側もする側も決して満足できなかった。在宅介護では介護者の精神的かつ肉体的疲労度は計り知れないものだ。痛感した反面、時折見せる祖母の嬉しそうな表情と私たちへの感謝の気持ちを聞いた時、介護に携わられたことは私にとって宝物であると感じた。

祖母の介護の経験を生かし、将来両親に介護が必要になった際、背を向けるのではなく少しでも快適な暮らしに近づけるようにサポートしていきたいと思う。



江戸川学園取手高等学校

五十嵐 凜乃



茨城県介護福祉士会長賞

誇り

介護職に就き十七年が経ちました。介護職を選んだきっかけはお年寄りが好きだからとかではなく、安易な考えでした。高校三年生の就職活動中、担任から何がやりたいのか？と聞かれた際にやりたい事もなく、やりがいがある事をしたいと伝え、紹介されたのが介護でした。まさか、自分が介護士？と思ってもいなかったので驚きました。いざ就職し、介護職として働き始めましたが、色々な壁にぶつかりました。始めは知識も技術もなく、目上の方に対する言葉遣い、人のお世話をする事の難しさ、社会人としてのマナーも分からず四苦八苦していました。まったく上手くいかず、何度も挫折をし、仕事に行きたくない。辞めたい。と思うようになってしまった事もありました。あと何時間で出勤出来る。そんな事ばかり考えていたある日、一人の入居者様が声を掛けてくれました。その入居者様の一言で自分自身の考え方が大きく変わりました。「いつもありがとうございます」その言葉でした。自分は誰の為に、何の為に介護職を選



特別養護老人ホーム愛和苑

船橋 海人

び働かせてもらっているのだろう。やりがいがある仕事がしたいと言って紹介してもらったはずなのに・・・と中途半端な考えの自分にすごく腹がたちました。その日から仕事に対する考え方が変わり、介護に対しても前向きな気持ちになれた事を今でも思い出します。誰しも挫折してしまう事はあるし、「失敗は成功の基」の言葉通り、失敗を重ねてきて、周りの方々に支えてこられここまで続けてくる事が出来たので、日々、感謝の気持ちを忘れず生活していきたいと思えます。今、自分が指導する立場となり、目標としてもらえるよう介護士としてもっと成長していきます。今は毎日が楽しく、堂々と「介護職に就けて良かった」と心から思えます。自分にとって入居者様の笑顔、言葉は励みでもあり、誇りです。あの時の入居者様にもう一度会えたとしたら今度は私から「ありがとうございます」と心から感謝の気持ちを伝えたいと思っています。

茨城県老人福祉施設協議会の目的

会員の老人福祉法上による老人福祉施設及び在宅サービス事業、介護保険法上による居宅介護支援事業及び居宅介護サービス事業の経営管理に関する研究・情報交換及び職員の資質向上のために必要な事業を展開し、老人福祉施設等の持続的発展、社会的認識の高揚を図ることによって、茨城県の老人福祉施設の向上に寄与することを目的としています。

福祉人材の
育成

介護事業所の
管理・運営の
向上

高質・多様な
サービスの提供

本会の
組織・共同活動の
充実

安心を支える介護の構築

一般社団法人 茨城県老人福祉施設協議会 概要

委員会

- 経営管理委員会
- 総務・組織拡大・広報委員会
- 災害対策・BCP委員会
- 研修・研究委員会
- 科学的介護・生産性向上委員会
- 次世代委員会
- 福利厚生委員会
- 福祉人材対策委員会

協議会の事業

- ① 全国社会福祉協議会、全国老人福祉施設協議会、並びに関係官庁及び諸団体との連絡調整
- ② 茨城県社会福祉協議会との連携強化
- ③ 会員相互の連絡調整及び情報交換
- ④ 老人福祉施設等の経営及び管理運営に関する調査研究
- ⑤ 施設職員の資質向上のための研修及び福利厚生事業
- ⑥ 会員施設の利用者の自立を支援しQOL及びCSを高める調査研究
- ⑦ 会員の慶弔に関すること
- ⑧ その他目的達成に必要な事業



茨城県老施協
マスコットキャラクター
ローシー

2018年11月11日「介護の日」に生まれる
介護の「介」をモチーフにしている
頭の形は「筑波山」
目は国道6号線（ロココク）の「6」
体はメロン生産量日本一にちなみ「メロンパン柄」



一般社団法人 茨城県老人福祉施設協議会

〒310-0851 茨城県水戸市千波町 1918 (茨城県総合福祉会館内)

TEL : 029-241-8529/FAX : 029-241-4456

メール : info@jsibaraki.jp ホームページ : <https://www.jsibaraki.jp/>



茨城県福祉人材センター

福祉の就職活動

あらかも！
福祉の仕事



お手伝いをします



求職登録者 受付中 !!

福祉の仕事に就きたい方と、福祉施設・事業所を結びます。
無資格・未経験者でもご紹介できる仕事があります。
福祉の仕事に興味のある方は、ぜひご相談ください。

福祉人材センター窓口を利用

求職相談・求職登録
・資格や福祉の仕事に関する相談ができます（オンラインによる相談も可）。
・登録の際は「求職票」に就職活動の希望などの必要事項を記入していただきます。
求人情報の提供
・相談員と一緒に仕事を探したり、パソコンで求人情報を閲覧することができます。

Webサイトを利用

マイページ登録
「福祉のお仕事」からマイページ登録することができます。登録後は、当センターから相談会等のイベント情報が届きます。

福祉のお仕事
https://www.fukushi-work.jp/

福祉人材センターを通じて応募したい方

相談員が、事業所の選考に向けての必要事項を確認し、当センターから事業所に「紹介状」を発行します。

手紙を 電話・窓口・メール・オンライン

直接応募したい方

「福祉のお仕事」のWebから、求職者が希望の事業所に「応募」します。面接等の日程調整は、求職者が直接事業所で行うこととなります。

手紙を 「福祉のお仕事」ホームページ

選考～報告

選考を受けた事業所からご本人に連絡が来ますので、結果を当センターにお知らせください。



茨城県福祉人材センターは、社会福祉法に基づき、茨城県知事の指定を受けて茨城県社会福祉協議会が運営しています。福祉への参入促進や求職者のスキルアップ等を支援しています。事業所等への架け橋となり、福祉についての情報提供や就職のあっせんを無料で行うとともに、福祉なお、無料職業紹介事業については、職業安定法に基づき、厚生労働大臣の許可を得て実施しています。【無料職業紹介事業許可番号 08-A-00006】

社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会
茨城県福祉人材センター
TEL.029-244-4544 FAX.029-244-4543
〒310-8586 茨城県水戸市通町1918番1号1F グラマシービル福祉部2階



茨城県福祉人材センター

福祉の人材確保



お手伝いをします



事業所登録から求人票掲載、求職者紹介やマッチングなど、
全て**無料**でご利用いただけます!!

STEP1 事業所登録

全国の福祉人材センターが運営するWebサイト「福祉のお仕事」から事業所マイページを登録することができます。

福祉のお仕事
https://www.fukushi-work.jp/

求人登録まで
簡単なSTEP

STEP2 求人票の申請

求人票は、「福祉のお仕事」の事業所マイページから申請できます。当センターで内容を確認し、承認後に求人掲載されます。

- 掲載される場所**
- 1 Webサイト「福祉のお仕事」
 - 2 求人情報誌『うえるわーく』（1回発行）
- ※当センターへ来所された方に
閲覧できるように開示



紹介

当センターが、事業所の選考に向けての必要事項を確認し、当センターから事業所に「紹介状」を発行します。

スカウト

「福祉のお仕事」のWeb上で、事業所から求職者に「スカウト」します。
※スカウトは求職者の同意なしに就職申込み、事業所がかわつてきます。
※有効な求人票が必要となります。

選考～報告

求人事業所が選考を行い、選考結果を求人側から本人に連絡すると同時に、当センターにもお知らせください。

茨城県福祉人材センターは、社会福祉法に基づき、茨城県知事の指定を受けて茨城県社会福祉協議会が運営しています。福祉への参入促進や求職者のスキルアップ等を支援しています。事業所等への架け橋となり、福祉についての情報提供や就職のあっせんを無料で行うとともに、福祉なお、無料職業紹介事業については、職業安定法に基づき、厚生労働大臣の許可を得て実施しています。【無料職業紹介事業許可番号 08-A-00006】

社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会
茨城県福祉人材センター
TEL.029-244-4544 FAX.029-244-4543
〒310-8586 茨城県水戸市通町1918番1号1F グラマシービル福祉部2階





公益社団法人

茨城県理学療法士会

Ibaraki Physical Therapy Association

茨城県理学療法士会は県内44市町村と協働して下記の事業を市町村単位で展開し、県民の健康寿命の延伸を目指します。

★北茨城地域自立支援センター

- 住民の自立支援・重度化予防にかかわる相談
- 住民の介護予防、フレイル・ロコモ予防の啓発・実践活動
- 保健・医療・福祉の専門職からの相談
- 北茨城市や関係機関とともに地域包括ケアシステム構築に協力

【相談事例】

- 退院後の自宅で安全に生活がしたい
- 自主グループで話をして欲しい
- ケアマネジャーで担当している人のご家族の対応について相談したい 北茨城
- 障がい児・者や家族からの在宅生活に関する相談をしたい 地域自立支援センター

〒319-1559 茨城県北茨城市中郷町上桜井844-6
北茨城市コミュニティケア総合センター元気ステーション内
TEL : 0293-44-3616

紹介動画



★筑西地域自立支援センター

〒308-0816
筑西市徳持 433-3 (ザ・ヒロサワ・シティ内)
TEL : 0296-47-0294

- 相談支援事業所「ひなた」
(事業実施委託先：茨城県リハビリテーション専門職協会)
- 無料職業紹介事業

★まちの保健室・健康交通安全講座等での活動

さまざまな機会、場所で県民の皆さんのフレイル・ロコモ予防、認知機能低下予防の啓発活動を推進しています。

まちの保健室は、茨城県看護協会と協力し、茨城県保健衛生会館や水戸市内のシルバーリハビリ体操教室等に出向き、講話や体力測定、運動指導、相談などを行っています。



健康安全運転講座は、ダイハツ工業・市町村・あいおい同和損害保険と当会で協力し、体力測定、交通安全についての講座やサポカー体験・近距離モビリティ体験を開催しています。これまで鹿嶋市で開催しています。



【お問い合わせ先】

公益社団法人 茨城県理学療法士会
〒310-0034 茨城県水戸市緑町3-5-35
(茨城県保健衛生会館内)

TEL : 029-353-8474

FAX : 029-353-8475

ホームページ : <http://www.pt-ibaraki.jp/>



各種SNSもご覧下さい♪

Facebook、X、Instagram
YouTubeチャンネル、
LINE公式アカウント



一般社団法人
茨城県介護福祉士会



昨年度は茨城県介護福祉士会にとって激動の一年でありました。

新型コロナが第5類に引き下げられた後としては初めて日本介護福祉士会全国大会を完全対面にて開催させて頂き、全国の皆様および関係機関のご協力のもと750名を超える方々に参加頂きました。ありがとうございました。

そして災害対応として、大子町で起きました令和5年台風13号の水害では現地にボランティアを10名派遣し、元日におきた令和6年能登半島地震においても、延べ11名を1.5次避難所へ派遣させて頂きました。介護福祉士の専門性が発揮できたタイミングでもあったのではないかと感じました。

さらに、令和6年度の診療報酬・介護報酬同時改定では、これまで以上に医療・介護連携が色濃く打ち出されました。その医療と介護の橋渡し役として我々介護福祉士の力量が問われています。これまで以上に充実した研修を提供してまいります。

最後に、今年度は茨城県介護福祉士会設立30周年を迎えます。これまで会を築いてこられた諸先輩の皆様には大変に感謝申し上げますとともに、これからも会員の皆様と一致団結していく所存であります。



さあ！一緒に
頑張らしよう！

一般社団法人 茨城県介護福祉士会 会長 森 久紀

公益社団法人 日本介護福祉士会

第30回 全国大会 第21回 日本介護学会 in いばらき 感謝御礼!!



記念トークセッション
(特別ゲスト 森三中 黒沢 かずこ氏)



一般社団法人茨城県介護福祉士会 事務局

事務局：〒310-0851 茨城県水戸市千波町1918番地

セキショウ・ウェルビーイング福祉会館5階
(茨城県総合福祉会館)

TEL：029-353-7244 (月・木 9～17時)

FAX：029-353-7246





茨城県

茨城県福祉部長寿福祉課 介護基盤整備グループ

〒310-8555 水戸市笠原町 978-6 tel.029-301-3321



一般社団法人 茨城県老人福祉施設協議会

〒310-0851 水戸市千波町 1918 tel.029-241-8529